

製品名: Kv4.2 (リン酸化 Ser616) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04933**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	KCND2
別名	KCND2; KIAA1044; Potassium voltage-gated channel subfamily D member 2; Voltage-gated potassium channel subunit Kv4.2
遺伝子 ID	3751.0
SwissProt ID	Q9NZV8
免疫原	ヒト Kv4.2 のリン酸化部位（リン酸化 Ser616）周辺の合成リン酸化ペプチド

背景

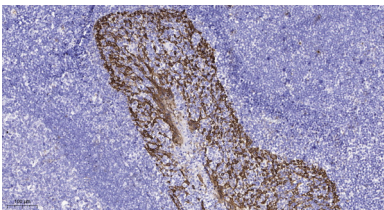
電位依存性カリウム (Kv) チャンネルは、機能的および構造的観点から、電位依存性イオンチャンネルの中で最も複雑なクラスに属しま

す。その多様な機能には、神経伝達物質の放出、心拍数、インスリン分泌、神経細胞の興奮性、上皮細胞の電解質輸送、平滑筋の収縮、細胞容積の調節が含まれます。ショウジョウバエでは、shaker、shaw、shab、shal という4つの配列関連カリウムチャンネル遺伝子が同定されており、それぞれにヒトホモログが存在することが示されています。この遺伝子は、電位依存性カリウムチャンネルのshal 関連サブファミリーに属する遺伝子をコードしています。これらのサブファミリーに属する遺伝子は、電位依存性 A 型カリウムイオンチャンネルを形成し、活動電位の再分極期において重要な役割を果たします。このメンバーは、N 末端の制御下にない、急速に不活性化する A 型外向きカリウム電流を媒介します。idomain:セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3つおきの位置に一連の正に帯電したアミノ酸があることが特徴です。function:電位依存性の急速に不活性化する A 型カリウムチャンネルのポア形成 (α) サブユニット。心臓の I(To)電流とニューロンの I(Sa)電流に寄与している可能性があります。チャンネルの特性は、他の α サブユニットおよび調節サブユニットとの相互作用によって調整されます。PTM:セリンおよびスレオニン残基がリン酸化されています。類似性:カリウムチャンネルファミリーに属します。D (Shal) サブファミリー。細胞内局在:培養された海馬ニューロンの樹状突起で検出されます。KCNIP2 との関連は、おそらく細胞表面発現を促進します。subunit:KCND1 および/または KCND3 とのホモテトラマーまたはヘテロテトラマー。DPP6、DLG4、FREQ と相互作用する (類似性による)。DLG1 と相互作用する。調節サブユニット KCNIP1、KCNIP2、KCNIP3、KCNIP4 と会合する。おそらく KCNIP1、KCNIP2 アイソフォーム 3、および KCND2 からなる複合体の一部である。KCND2-KCNIP2 チャンネル複合体は、4つの KCND2 サブユニットと4つの KCNIP2 サブユニットを含む。FLNA、FLNC、DPP10 と相互作用する。組織特異性:脳全体で高い発現を示す。他の組織では発現が非常に低いか、全く発現しない。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晚)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。